

## 第 25 回新技術交流会 報告

日時:2023年7月28日(金)14:15~17:00(講演会:14:15~15:50、工場見学:16:15~17:00)

交流会:17:30~19:00)

会場:三菱ケミカル(株)広島事業所レイオンホール、アゼリアおおたけ 大竹会館

参加人数:講演会 36名 交流会 30名

主催:中国地区化学工学懇話会

4年ぶりに講演会・工場見学・交流会のフルでの新技術交流会が開催された。コロナの余波もあり、当日にやむなく欠席された方も数名おられたが、懇話会会員の方々のアットホームな交流がなされた。3件の講演があり、会場からは技術的な質問の他、組織の活性化にかかわるダイバーシティに関する課題など、活発な質疑応答がなされた。工場見学ではプラントの配置・構成がよく分かる社員の方の説明付の見学で、時代の流れに合わせた製品開発や強みとなる製品開発がどのような規模で製造されているか、実感できた。

### (1) 講演会

開会の挨拶

広島大学大学院先進理工系科学研究科 島田 学氏

#### ①「米子高専の近況と研究室紹介」

米子工業高等専門学校 物質工学科 伊達 勇介氏

全国の工業高等専門学校の動向についてまず説明があり、地域を超えて全国どの高専にも行けるようになっていることが説明された。化学系は中国地区には米子と宇部にある。求人倍率は10倍以上できわめて高い状況である。卒業生の就職先の企業を希望する学生が多いが、総合工学科と名称変更して女子学生が増え、女子学生がしやすい環境のある就職先が選ばれる傾向にある。米子高専は珍しく講座制のような仕組みが残っており、地域に関係したテーマや学生を育てる趣旨の研究テーマを設定しているとのことであった。高専の状況がよく理解できる講演であり、化学産業、大学を含めた工学系の人材育成の点でwin/winな関係を築く必要があると感じた。

#### ②「機能性ポリマーに対する超臨界CO<sub>2</sub>の溶解度・拡散係数の測定及びモデリング」

広島大学大学院先進理工系科学研究科 宇敷育男氏

これまでの研究歴について説明後、最近行っているポリマーへのガス溶解や拡散について、PC-SAFT状態方程式を使用した関連・推算について紹介され、Sanchez-Lacombe状態方程式よりも汎用性が高い結果が報告された。

#### ③「三菱ケミカル(株)広島事業所 サステナビリティに関する取り組みの紹介」

三菱ケミカル(株)広島事業所 間鍋 徹氏

三菱ケミカルでのKAITEKIをキーワードにしたサステナビリティの取り組み・理念について説明があった。その後、広島事業所における地域連携とサーキュラーエコノミーの取り組み事例が紹介され、技術だけでなく行政も含めた共創と完遂が望まれることが説明された。講演では時間の関係で割愛されたが、現場・オペレータでの女性の活躍についても交流会で説明があった。

### (2) 工場見学会

バス1台に乗車し、MMA製造方法、炭素繊維製造の状況等について説明を聞きながら見学した。装置の工夫や改善歴、規模感がわかる工場見学であった。

### (3) 交流会

新しくなった大竹会館での交流会で、清水懇話会会長から交流の意義についてご説明があった。加藤懇話会副会長からも大竹市のゆかりの話もあり、交流会の意義が十分達成されたと思う。

最後になりますが、三菱ケミカル(株)の皆様には細かな対応をいただき、本会がとてもスムーズに開催できましたこと感謝申し上げます。  
(文責: 広島大学 木原伸一)